

私の工夫

夜間定時制高校における金融経済教育の実践

倉敷市立精思高等学校

教諭 小津野 純



1 はじめに

本校で学ぶ生徒の半数以上は、小・中学校時に不登校の経験があり、また集団生活を苦手とする傾向がある。そのため、生徒の生育環境や発達段階を十分に理解・配慮した指導を組織的・継続的に展開している。一方、本校の約6割の生徒は就労し、その半数が携帯電話料金や遊興費のために給料を使い、貯金をしていないという実態がある。

このような状況に鑑みて、生徒が将来、豊かで充実した社会生活を営んでいけるよう、次の二つの力を身につけさせることが必要であると考えた。

- ・「お金やモノを大切にする心や知恵」
- ・「金融や経済に関する基本的な

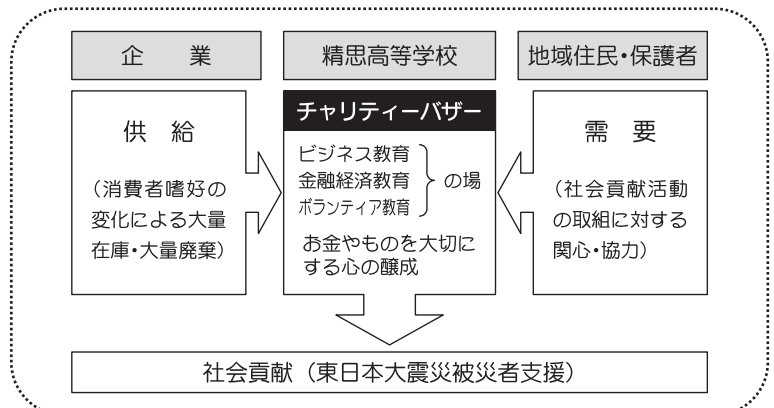
知識・技術

そこで、平成25・26年度の2年間、岡山県金融広報委員会（事務局 日本銀行岡山支店）より金融教育研究校の指定を受け、先述の二つの力を身につけさせる取組を実践した。

2 「お金やモノを大切にする心や知恵」を育む実践

本校は年1回、開かれた学校づくりと社会貢献を目的として、地域住民・保護者と生徒の交流行事「わかばフェア」を開催している。この行事は平成24年度に商業科が中心となって始めたチャリティーバザーを核として、回を重ねるごとに、学校間連携、模擬店、キッズコーナー、展示などを加え、幅広い年齢層を対象とした複合イベントとして地域に浸透している。とりわけ、チャリティーバザーは、「売上全額を東日本大震災被災者支援へ」という趣旨に賛同する企業から、流通上のルールや流行遅れにより、第一次流通市場に登場できなかった商品を無償で提供してもらい、本校が主体となつて、その商品に「社会貢献」という価値を付加し、第二次流通市場を作り出す取組である。

この取組における教育効果として、



外部（企業・地域住民や保護者）と連携した「チャリティーバザー」



POSレジシステムを活用した会計処理

て、一つ目は商品管理、値付け、販売、経理等を通じたビジネス教育実践の場となることである。実際、一連の活動の振り返りにおいて、生徒による「来場者数の増加にともない会計処理の効率化が喫緊の課題である」との提言が、POSレジシステムの導入に結び付いた。これは昨今あらゆる実践で求められているPDCAサイクルの「C」を起点とした成功事例といえる。

二つ目は食品ロスなど社会問題

に対する当事者意識を涵養する場となることである。チャリティーバザーの他、学校間連携による地域資源の魅力を発信する取組や、社会問題をテーマにした展示による考察や発表は、お金やモノだけでなく、身の回りのあらゆる事柄に目を向け、視野を広げさせる機会となっている。

3 「金融や経済に関する基本的な知識・技術」を習得・活用・探求する実践

金融教育の実践を通じて習得した知識を確認することを目的として、全国高校生金融経済クイズ選手権（通称 エコノミクス甲子園）への挑戦を試みた。なお、このエコノミクス甲子園の参加は興味を示した生徒によるものである。

まず参加にあたり、義務教育段階で躓いた生徒が全日制の高校生と勝負できるのか、あるいは大きな舞台で尻込みをして自信を失わせてしまわないかといった心配や不安があった。

しかし、初挑戦（平成25年度）の参加において、出題内容及び形式と生徒の達成感・充実感から、

生徒の心理的ケア、教材及び指導の工夫如何では成功体験をさせる取組になるのではないかと感じ、本腰を入れて指導にあたった。

心理的ケアでは、常に寄り添い、成果を褒めてやる姿勢を持ち、定期的な目標に対する到達段階を明示してやることを意識的に行った。また教員生徒が目標を確認・共有し、それに向かって一緒に学んでいく姿勢が生徒に安心感をもたらすし、学ぶ意欲の向上に繋がった。

教材及び指導の工夫については、まず目標達成を見通した長短の学習計画表や独自の教材等を示すことにした。

指導の導入段階では、厳選した経済関連書籍や経済情報番組を紹介し、生徒のペースで見聞させることで、主体的な学びを通じて金融経済に関する興味・関心を高めさせるようにした。

次に、その学びから気づきや問いが生まれた時機が、興味・関心を持ち始めたと考え、新聞記事を主体とした教材を用いて、対話形式による学習を展開した。効果的で深い学びを演出するため、将棋の先の手を考えるように、準備にあたって、予想される生徒の意見

と理解させたいことをどう結び付けていくかという点に充分留意した。

そして、理解の深まりと同時に、実践形式の学習を取り入れ、インプットとアウトプットによるサイクルを繰り返すことにした。次第に、アウトプットからどのインプットが必要なのか生徒自らの確に判断できるようになった。このように成長に比例して自信を深めていった結果が、平成26・27年度の2年連続岡山大会優勝の達成に繋がったと感じている。

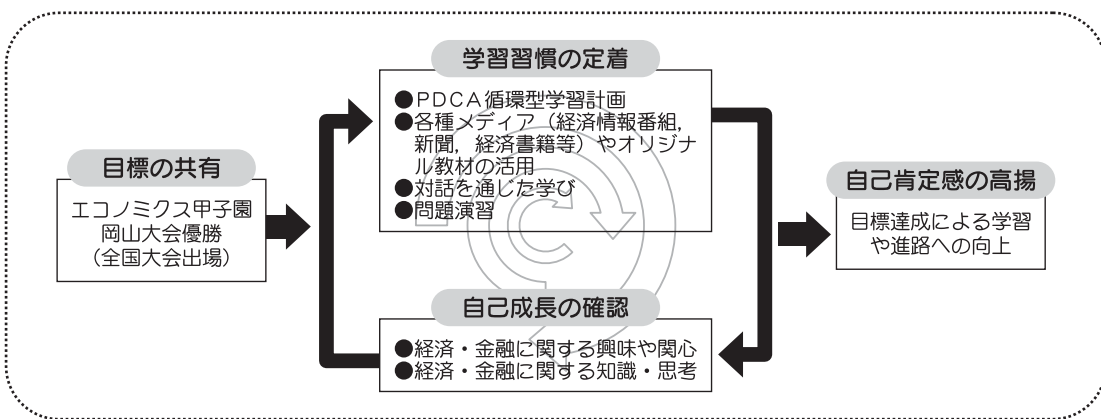
4 おわりに

2年間の研究指定を受けて、「金融」をテーマに取り組んだ実践が、現在でも本校の魅力づくりの一翼を担い、年度を追うごとに改善が加えられ、より充実した取組として定着している。

一方で、多くの生徒が金融経済の実態や変化に対応できる力を備え、将来の自立に向けた準備が整えられているかといえば、まだまだ不十分な面が垣間見られる。

このような課題の解決にあたっては、教員全体が共通の課題認識

を持ち、場面に応じて地域や産業界の協力を得ながら、スモールステップの取組を積み上げていくことが必要である。



エコノミクス甲子園を通じた学習スパイラルモデル